

## 第 4 期中期目標期間業務実績に係る全体評価への意見

## 【小山委員】

- 法人の設立目的に照らし、業務により得られた成果が、県民の健康の確保及び増進に寄与している。  
周産期・小児医療分野における高度専門医療や高度な療育サービスの提供や県全体の周産期・小児医療、療育水準の向上を図るといった、県の担うべき、政策医療・療育が確実に実施されている。

## 【熊谷委員】

- コロナ禍の影響を受けた中でも、こども医療の中核的存在として、地域医療に貢献してこられたことは、評価できます。
- 経営面では、医業収支が補助金を差し引いても安定していく状況になることを目指していただくことを期待します。

## 【郷内委員】

- まず「診療事業及び福祉事業」において
  - ①質の高い医療・療育の提供
  - ②患者・家族の視点に立った医療・療育の提供
  - ③患者が安心できる医療・療育の提供のいずれの項目においても成果を出しており、高く評価いたします。
- また、在宅療養や療育支援の枠組みづくり、短期入所や体調管理入院の充実を図るなどして、入院から退院、在宅復帰までトータルに支援するスキームの構築を目指した点は、こども病院の重要な取り組みとして評価します。
- 質の高い医療・療育従事者の確保並びに育成に向けて、研修や研究支援体制を充実して人材のレベルを維持することに成功していると思います。
- 医療資源の有効活用や業務運営コストの節減の取組も、精力的に取り組んでこられました。
- さらに職員の就労環境の整備には、適切に対応しており、看護師の離職率も全国平均より低い。
- 以上により、業務運営体制は適切に管理されているものと評価いたします。

## 【小林委員】

- この期間は新型コロナウイルス感染症との対応で大変な時期であった。コロナ禍においても、質の高い専門的な医療・療育によく取り組んでいたと思われる。
- 非常に高額な遺伝子治療が導入された時期でもあるが、プロジェクトチームを発足させ積極的に取り組んでいることは評価できる。
- 成人移行に対し支援チームを発足させ対応を開始している。難しい課題も多く、今後の更なる検討に期待したい。

### 【齋藤委員】

- 新型コロナウイルスによる減収から、少しずつ回復している状況を理解できました。

### 【土屋委員長】

- 令和2年からCOVID-19パンデミックの影響を受けた期間です。

この間こども病院は本来の診療体制を可及的に維持しつつ、COVID-19に対する対応の準備をすることができ、また計画に沿った感染症患者の受け入れも行っています。

COVID-19に対する補助金収入もあり、令和2年、令和3年とも病床稼働率は低下したものの、外来患者数は増加に転じ、経常収支比率が100%を超えたことは、評価すべきことだと思います。

まだこれからもこども病院は通常の医療療育サービスとCOVID-19対策を共存させなければいけませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

以下のことを特に記しておきます。

1. SMAの治療薬として発売されたゾルゲンスマは、今までなかった高額医薬材料費の問題を提起しています。

予算上の扱いをどうするのか検討が必要です。

2. こども病院は積極的に医療にパラメディカルスタッフが加わり、高度なチーム医療を実現しています。

提出された論文リストを見るとパラメディカルの職種では看護部が論文をまとめています。

しかし、リハビリ系、心理系等の領域でも学会は存在し、成果を発表する機会はあると思います。

こども病院で学んだことをまとめ、発表する姿勢が求められていると思います。

よろしくお願ひします。

### 【橋本副委員長】

- 業務全般として、特に問題となる大きなものはない。コロナ禍にあった2年強が含まれることを考えれば、幹部職員のたゆまぬ努力には敬意を表する。ただし、財務諸表について述べたように、経営は厳しいものであり、計画的に経費削減を目指すべきである。
- 経費で最大のものは何といても人件費だが、職員の士気を損じることのないようにしつつ給与を抑える方策を考える必要がある。一般に自治体病院の給与水準は民間や国立、独法と比べ高いとされるが、昇給停止年齢の引き下げなど、打てる手はあるはずである。これはむしろ、県が計画的に実行すべきこととも言える。
- また、病院では働き方改革のなかで時間外労働を削減することも経費削減には効果的であり、幹部の手腕に期待したい。